

教員名	荻原 千鶴 (OGIHARA Chiduru)
所 属	文教育学部言語文化学科日本語・日本文学講座
学 位	博士（人文科学）（1996 お茶の水女子大学）
職 名	教授
URL/E-mail	

◆研究キーワード

古事記 / 風土記 / 万葉集

◆主要業績

総数 (2) 件

- ・「橋に立つ神—古代日本文学に見る—」『古典に親しむ』（城西国際大学）p59～p78 2005.4
- ・『出雲国風土記』の説話表現（上代文学会 風土記の可能性を考える会）研究発表 2006.3

◆研究内容

『古事記』『日本書紀』には、神が橋に立つ叙述が散見される。橋が斯界と異界をつなぐものであればこそ、橋は神の示現のための装置にもなることを指摘し、そうした橋の表象性が『万葉集』の歌に姿を変えて受け継がれてゆく様相について考察した。

一方『出雲国風土記』の説話表現については、他国風土記に比して顕著な特性があること、すなわち神を行為主体としその行為を地名起源に結ぶことがパターン化していることと、その意味などをこの数年来研究テーマとし、いくつかの論文を公表してきたが、2005年度にはその感情表現の特性について研究した。『出雲国風土記』の説話の感情表現の乏しさが何を意味するかを研究するために、『風土記』はもとより『古事記』『日本書紀』『日本霊異記』など、日本上代散文作品全般にわたってデータをとり、整理考察して、上代文学会の「風土記の可能性を考える会」において、研究発表を行った。

◆教育内容

学部では、日本古典文学史論・日本文学概説・日本古典文学論特殊研究・日本古典文学論基礎演習・日本古典文学論演習・日本文学研究指導の授業を担当した。文学史は、日本上代文学の特性と史的展開について講じた。日本文学概説では、動物神信仰の衰退を観点として、上代から近世にいたる文学モチーフの変遷について講じた。特殊研究では「自然を詠む」のテーマのもとに『万葉集』歌の各期それぞれの変容を探る教育を行った。基礎演習・演習では日本文学を研究するにあたってのトレーニングを指導した。日本文学研究指導では、上代文学作品をテーマとする学生の卒業論文作成のための指導を行った。また学部3年生の研修旅行の引率を行い、自作の資料も用意して、図書館や文学故地の実地踏査における指導を行った。

大学院博士前期課程では日本上代文学特論の授業を担当し、英雄造形をテーマとする作品分析についての指導を行った。また修士論文作成にむけて、『古事記』の代表的注釈書の比較対照に関し指導を行った。

◆受験生等へのメッセージ

『古事記』『風土記』『万葉集』など日本上代の文学は、1300年も前に書かれたものです。古代の人々の、現代とは大きく異なるものの考え方・感じ方がうかがえますが、それだけにかえって、現代の私たちの中に埋没してしまっているものを、はっと気づかせてくれたりするのです。古典を学び研究することは、現代を考えることにつながると、私は思っています。上代の作品にも、ぜひ目を向けてみてください。